

令和3年度 磐田市立竜洋中学校 学校評価書

A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

重点	目標・取組	評価指標	R3 到達度	自己 評価	考察	学校関係者評価委員から
安心安全な学校	生徒一人ひとりにとって安心して学ぶことができる人的、物的環境を整える。	「学校生活を楽しんでいる」と答える生徒95%以上	90%	B	昨年度の到達度90%から到達度の数値変化はなかったが、目標の95%は到達までは届かなかった。否定的な回答を示した10%の生徒の支援に努めていきたい。 コロナにより、学校生活にも制限がかかったり、安定した人間関係の構築が思うようにできなかったりするなど、不安要素を抱える生徒もいる。そのような生徒の心に寄り添い、今まで以上にすべての生徒が安心安全な学校生活を送ることができるよう個々の生徒の支援を図っていきたい。	・校長先生、教頭先生の優しい目線で職員1人1人を把握し、職員の仲間づくりに力を入れ、それに答える形で全職員が前向きに取り組んでいる。そんな毎日の姿が生徒の心を育てているのではと思います。 ・学校生活を通じて先生と生徒の信頼関係が築かれていることがうかがえ、よい傾向だと思います。 ・竜中の先生方が大きな心で子どもを指導し、支えてくださっているのが、安心して通わせることができていると思います。学校生活を楽しんでいる生徒が90%もいることにうれしく思います。 ・「職業従事者と語る会」に参加させていただいたときも、インターネットを使用した授業風景を参観させていただいたときも、生徒が明るく生き生きとした様子や廊下で挨拶してくれた姿に安心しました。その反面コロナ禍による家庭の事情で、不安定になり本当の悩みやつらさを話せない子がいることも現実としては考えられます。そんな生徒にも配慮していただきながら、今後もご指導よろしく願います。
		「先生は、あなたのことを理解してくれていますか」と答える生徒90%以上	90%	A	ステージ制を導入して以降、ステージの振り返り時にあわせて、小さな案件も教師が把握しやすいよう工夫を凝らしアンケートを実施した。生徒指導主事がすべてに目を通した上で、担任と連携をとり、気になる記述があった生徒には、すぐに職員が対応する体制が定着しつつある成果であると考えられる。	
		「悩み事を相談できる先生や友達がいいますか」と答える生徒95%以上	88%	B	目標には到達できなかったが、比較的高い数字を維持している。生活面での支援には配慮をしているが、学習面では不十分であるとも感じている。今後も、生徒や保護者のアンケートを元に、個への支援を進めていきたい。	
確かな学力の育成	授業改善を常に意識し、生徒が活動しやすい授業構想を練り、生徒にとって「わかる授業」を実践する。	「授業がわかる」と答える生徒90%以上	84%	B	多くの職員が、授業改善を意識し、確実に取り組むことができている。しかし、個の学力差の広がり、学年が上がるにつれて大きくなっているため、さらに授業改善を図りながら進めていきたい。	・タブレットを導入されても以前と変わらず生徒同士で話し合ったり、考えたりする授業が行われている。自分から進んで同級生の元に意見を求めに行ったり、話し合ったりする声が聞こえ、生徒主体の活気ある授業が行っていた。 ・自分で調べたり、考えたりする力がつくよう、先生方の支援を今以上にお願いいたします。 ・今年度よりGIGAスクールが始まったことにより、PCを通して新しい会話の形が生まれているようで、PCに慣れていない今の子どもたちにも合っていると思われる。コロナ禍が続く中、休校になった際にも学びを止めないようタブレットを持ち帰り、オンライン授業を試すなどしてどのような状況にも対応できるように備えてくれているのが分かるので、生徒・保護者ともに安心できる。
	授業の方法を改善し、自分で調べたり、仲間とともに考えたりするなどの活動を取り入れる。	「進んで先生に聞いたり自分で調べたりして学習している」と答える生徒80%以上	72%	C	目標値に対して、低い到達度である。新学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実践に向け、さらなる研究を進めていく必要がある。	
主体的に考え、ともに学び、実行する生徒の育成	学校行事や委員会活動、部活動など、生徒が主体的に取り組むと共に、個を育て一人一人の向上につなげる。	「生徒会や学級の係活動・部活動に積極的に取り組んでいますか」と答える生徒90%以上	90%	A	熱心に生徒会活動、部活動に取り組んでいる姿が見受けられる。生徒会においても、自主的な活動が見られるようになってきているので、さらに意識が高揚するよう支えていきたい。	・コロナの影響で部活動やボランティア活動などが十分に行えなかつたと思いますが、その中でも生徒同士のつながりが高められたのはすばらしいと思います。 ・2大行事はもちろんのこと、Ryu-1フェスにおいても子どもを通して聞くと、披露する生徒もそれを鑑賞する生徒もとても生き生きしていると感じられた。 ・仲間と協力して何かをすることは得意だが、自分から進んで行動したり、発言することはまだ消極的だと思う。
		「互いにルールを守り、協力する雰囲気がある」と答える生徒90%以上	90%	A	昨年度の到達度84%から向上した。学級自治ができてきており、2大行事などに学級一丸となって取り組む姿が見られた。今後もさらに、生徒同士で注意し合えるような厳しくも、温かい人間関係づくりを進めていきたい。	
小中一貫教育の推進	地球の様々な課題を自分ごととしてとらえ、足下から行動するとともに、周りの人々とのプラスの関わり合いを持つことで、自己存在感、自己有用感を高める。	「グループ交流を通して、学府の小学生と関わることのよさを感じることができた」と答える生徒80%	90%	A	学府大交流会は実施できなかったが、グループ交流会は11月に実施した。そこでは生き生きと小学生との交流を楽しむ姿が多く見られた。コロナにより活動に制限されてきたこの2年間を経て、人との関わりを心から欲していたが故の笑顔だったようにも感じた。次年度も、本年度の内容を継続して進めていきたい。	・昨年度はできなかったことが今年は先生方の創意工夫や熱意のおかげで実施でき、生徒にとってコロナ禍で貴重な体験ができたと思います。 ・毎学期実施し、年間3回くらい交流会がもてるとうれしく感じました。

学校関係者評価を受けてのまとめ

・「安心・安全な学校づくり」については、ここ数年高い水準で推移しており、今年度の到達度も昨年度よりも上昇および現状維持ができている。コロナ禍で行動に制限がかかる中であっても、感染拡大予防に留意しながら創意工夫を凝らして教育活動を推進してきた成果であると学校関係者から高い評価をいただいた。今後は否定的な回答を示した約10%の生徒への対応に意識を高め、不安定な社会状況の中で、学校生活に対して不安要素を抱えている生徒への支援により一層力を傾けていきたい。

・今年度から1人1台端末が導入され、「主体的に学び続ける生徒の育成」という研修主題のもと、ICTを授業実践の中でどう活用するかについても意識しながら研修を重ねてきた。その結果、「授業がわかる」と答えている生徒の割合は、目標までには届かなかったものの、昨年度よりも高い数値になった。しかし、「自分で先生に聞いたり、調べたりしている」と回答した生徒の割合は、到達目標まで至らなかった上に、昨年度よりも若干数値が下がっていた。今後も研修を重ね、「自らの学びを調整する力」の向上を図るとともに、継続して授業改善に努めていきたい。

・「小中一貫教育の推進」に関しては、コロナ禍でありながらも、感染拡大予防に十分留意してグループ交流会を行うことができた。学校公開の機会は、コロナ禍のため、それほど多くはもてなかったが、その分、生徒の学校生活の様子を学校のホームページでアップし情報発信に努めたことで、HP閲覧数を大幅に伸ばすことができた。来年度は、大交流会を実施する予定である。学校関係者からも力強い支持と賛同をいただいているため、こうした交流活動も含めて、今年度以上に地域・保護者を巻き込みながら、小中一貫教育およびコミュニティスクールの推進に力をいれていきたい。